

1 「出題の意図」

選抜区分	2024年度（選抜区分：一般前期） 文学部人間関係学科（科目名：小論文）
出題の意図 (評価のポイント)	<p>1. 各設問の出題の意図及び問1・問2の解答例</p> <p>問1 読解についての設問</p> <p>この文章の中で書かれている筆者の見解を的確に読み取る力を見ている。</p> <p>解答例</p> <p>私たちがいくら自己本位的に己の利益を追求しようとしても、私たちの内なる種々の感情によってそれらは少なからず阻まれることになり、そして、そうした感情が他者との関係性の調整をも推し進める結果、集団全体の利害バランスが相対的に適切に保たれ得るとのこと。(124字)</p> <p>問2 読解についての設問</p> <p>この文章の中で書かれている筆者の見解を的確に読み取って要約できる力を見ている。</p> <p>解答例</p> <p>私たちは競合する目標間のバランスの調整を図り、長期的に自身の全体としての心身の健康や適応性などを具現しなくてはならない。恐れや不安といった感情に基づく友人関係の修復に向けた一連の行動は、勉学や仕事の遂行を乱す抑制すべきものに見えるかもしれないが、それらに素直に従う方が、その個人の全人格あるいは全生活における主観的幸福感や長期的な社会適応性により適ったものとなる。(182字)</p> <p>問3 小論文</p> <p>課題文では、感情が機能的なものであるためには制御されなくてはならないが、個人内の心身の安定や健康という観点からしても、個人間の関係性の構築や維持あるいは分断という観点からしても、決して制御されすぎてもならないものであることが指摘されている。これらの点を踏まえ、「感情のほどよい有効活用」とはどのようなことを考え、具体的な例をあげながら論理的に説得力をもって表現できる力を評価することをねらいとしている。</p>

2. 受験生への情報提供

問1 解答の傾向

課題文中の該当箇所をそのまま抜き出して書けば正解となるものであり、大半の答案がそのように記述していた。

問2 解答の傾向

設問に関する下線部の周辺のみを要約している解答と、下線部周辺を含め、課題文後半の筆者の見解も踏まえて要約している解答とに大別された。本課題文および本設問の場合、課題文の最後まで読み込むことで、筆者の見解をよりの確に捉え、要約することが可能になるものであった。筆者の真意を掴むために、どこまでの範囲を要約するかを見極める力も身につけてほしい。

問3 解答の傾向

課題文の問題提起をよく読んでいない、もしくは理解できていないまま設問に答えたと思われる解答が多くみられた。一方で、課題文の主旨はつかめているが、ほぼ課題文の要約となっており、自身の考えや具体例を十分に述べていることができていない解答もあった。

感情が制御されすぎてはならない理由として、個人内の心身の安定や健康に言及している解答は多くみられた。しかし、個人間の関係性の構築や維持については、感情を制御することに重点をおいた解答が多く、制御されすぎてはならないという観点からの解答が少なかったことが残念であった。

また、論の構成を考えないまま記述を始めたと思われる解答が散見された。解答用紙に書き始める前に、自身の考えをどのように説明するのか全体構成を考えるようにしてほしい。